

生徒による授業アンケート分析

評価4 と思う 3 やや と思う 2 あまり 思わない 1 思わない

I 全体分析

全教科を通じて、「あまり思わない」「思わない」の割合が30%を超え評価が低いのは、

- ③ 目標「授業の目標やねらいを明確にし、授業の終わりにまとめをしている」
 - ⑧ 対話発表「生徒が話し合いや発表、質問する機会を設けている」
 - ⑨ 授業改善「授業に対する生徒の意見や要望を取り入れている」
- の項目である。
- ③ 「目標の明確化とまとめ」に関しては教科にかかわらず評価が低い。
 - ⑧ 「話し合いや発表、質問の機会を設ける」に関しては、「思う」「やや思う」が文系科目（国語・地歴・公民・英語）では、80%を超えているが、理系科目（理科・数学）では56%と大きく差が見られる。
 - ⑨ 生徒の意見や要望の反映については、数学・英語・理科の順に評価が低い。
- 全体からは、知識理解に偏った授業の在り方の改善と指導目標と評価の明確化の必要性がうかがえる結果となった。

II 評価観点別分析

- ① **生徒理解 難易度・進度**は、肯定的補評価(4・3)の割合が概ね80%以上であり、生徒の実態に合ったものとなっている。
- ② **生徒理解 生徒把握**(生徒の理解度・学習意欲把握)は、肯定的評価が全体で71%とやや低く、理科が特に67%と低くなっている。
- ③ **授業計画 目標提示とまとめ**は、評価項目中最も評価が低く、肯定的評価は65%である。どの教科も評価は低いが、地歴公民では否定的評価(1・2)が43%ある。単元・授業の学習目標を明確化して指導する必要がある。
- ④ **授業計画 評価方法の明示と多様な評価**は、全体で肯定的評価が72%とやや低く、本校シラバスに見られるような漠然とした提示ではなく、指導と一体化した評価の明示が求められる。
- ⑤ **教材活用**は、全体的には肯定的評価が、74%だが教科によるばらつきがみられる。理系科目のほうが評価は低く、教科では数学の否定的評価の割合が32%である。
- ⑥ **教材活用 教材・課題の理解**は、全体では肯定的評価が、81%とおおむね良い数値となっている。特に国語科の評価が高い。
- ⑦ **授業展開 説明**は、全体的に肯定的評価が82%と高いが、若干理系科目に分かりにくさを感じる生徒が多い。
- ⑧ **授業展開 対話発表**は、目標提示と並び最も評価が低く、肯定的評価が65%、特に理系科目では否定的評価が43%と評価が低くなる。知識の伝達にとどまらない効果的な指導方法の研究が求められる。
- ⑨ **授業分析 わかる授業**は、全教科では肯定的評価が81%だが、若干理系科目の評価が下がる。
- ⑩ **授業分析 授業改善**(生徒の声を取り入れることについて)は、肯定的評価が67%と3番目に評価が低い。教科としては数学・英語の順に評価が低く、目の前の生徒を視野に入れた授業の見直しが求められる。